

平成30年度 第2回島根県公共事業再評価委員会 質疑応答

件名	平成30年度 第2回島根県公共事業再評価委員会
開催日	平成30年7月23日(月) 9:00~16:00
場所	抽出地区(松江市、出雲市、安来市)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ●委員 石井洋子、上野和広、木村和夫、常國文江、寺田哲志、 豊田知世、林 秀樹、平川眞代、三輪淳子 ●県 土木部 技術管理課長、道路建設課 GL、河川課 GL、下水道推進課 GL 他
議事	<p>抽出箇所の現地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備総合交付金事業 国道432号東岩坂バイパス工区 ・社会資本整備総合交付金事業 (主)松江木次線東忌部工区 ・広域河川改修事業 平田船川(湯谷川工区) ・総合流域防災事業 吉田川 ・宍道湖流域下水道事業 西部処理区 <p>完了地区フォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路改築事業 国道431号東林木バイパス

質疑応答

◇抽出審議地区 広域河川改修事業 平田船川(湯谷川工区)

1. 現地での質疑 (湯谷川工区H30施工箇所にて)

(委員) 図面で青く塗っている範囲は何を示している？

(県) 想定氾濫区域を示している。

(委員) 改修済みの区間も青い箇所が見えるが？

(県) 想定氾濫区域については整備前からの氾濫想定区域を載せている。

(委員) H23の浸水範囲は？

(県) 図面上①から上流が浸水した。

(委員) H9の浸水についてはどうか？

(県) 手元に資料がないが、1/50の出水よりは小規模な浸水であった。

(委員) 氾濫するとすればどの辺りに被害がでるのか？

(県) 図面にて説明。

(委員) (その説明に対して) 河川勾配が緩いのか？

(県) 緩い。

(会長) 湯谷川を流下させるより斐伊川にショートカットした方が良いのでは？

(県) 河川勾配が取れないこと、また斐伊川は天井川で河床が高いので不可能。

(委員) 図面裏の緑色部分の湾曲部の目的は？

(県) 親水護岸を計画している。

(委員) 遊べるくらい水質は良いか？

(県) 斐伊川から取水しているので水質は悪くない。

(委員) 整備断面は完成形か？

(県) 暫定断面で整備中。図面上①から、さらに断面を絞る計画。

(委員) 段階的に整備する理由は？

(県) 流域全体の治水安全度をより早期に高めるため。

(委員) H23の出水において暫定改修完了箇所では浸水被害はあるか？

(県) ない。

(委員) 図面を見ると、平田船川の浸水想定が載っていないが？

(県) あくまでこの資料は湯谷川工区の説明図面であるため示していない。

(委員) 暫定整備でのハザードマップはあるのか？作成していなければ、住民に詳しい情報が伝わらない。

(県) 確認し、回答する。

(委員) 完了予定の平成59年度の整備断面は完成形か？

(県) 完成形。

(委員) 工事による生態系への影響は調査などしたのか？

(県) 工事前に調査を実施した。その際、ミナミアカヒレタビラ（島根県版レッドデータブック絶滅危惧種）を確認したため、専門家等の意見を聞きながら、産卵場所や産卵時期に配慮した施工を行っている。

(委員) ミナミアカヒレタビラ以外の希少種は存在しているか？

(県) 現在のところ、確認されていない。

(委員) 工事中も調査を行い、生態系に留意しているのか？

(県) 工事中も捕捉調査を行い留意している。今のところ、問題は発生していない。

宍道湖流域下水道事業 西部処理区

1. 現地での質疑 (管理棟屋上にて)

(委員) 汚泥を有効利用した売り上げはいくらか？

(県) 産業廃棄物として捨てているのではなく、処分費を払って肥料原料、セメント原料として有効利用している。収入があるわけではない。

(委員) 肥料原料の処分先は県内か？

(県) 雲南市、出雲市の事業者に出している。

(委員) 太陽光発電はいつから行っているのか？

(県) 平成27年から。

(委員) 元は取れるのか？売電はしているのか？

(県) 売電はせずに処理場運転の電力として利用している。処理場全体の電力量の約25%を賄っている。

(委員) 施設整備の方法は？

(県) 管渠は最大計画で整備し、処理場は汚水の流入量の増加に応じて段階的に整備している。

(委員) 現在の処理能力と流入量はいくらか？

(県) 計画処理能力が36,000t/日で流入量は25,000t/日、約7割の稼働率。

(委員) 処理方式の選定理由は？

(県) 処理水量に応じて様々な方法があり、最適な方式を選定している。

(委員) 整備計画の見直しサイクルはどれくらいか？

(県) 機械設備は20年から25年、コンクリートの躯体は50年での改築更新を行う計画である。

(委員) 東部と西部で処理費用は違うのか？

(県) 東部は高度処理を行うので西部より処理費用が高くなっている。

(委員) 出雲市の整備率が39.8%と低いと理由があるのか？

(県) 計画面積(分母)が広いので率は低く見える。

(委員) 水質保全の方法は下水道しかないとあるが、農薬使用量を減らすとか食べ残しを減らすということは考えられないか？

(県) 下水道推進課は下水道しかやっていなので外の方法はそれぞれでやってもらうことになる。下水道推進課の取り組みとして毎年9月10日を下水道の日として新聞、テレビ等で下水道事業のPRを行っている。小学校3・4年生を対象に下水道出前講座も行って、子供から家族への情報の拡大を図っている。

(会長、委員) 算出されたB/Cの効果は下水道整備面のみの計上か？環境面での効果は計上しているのか？

(県) 環境面の効果は未計上である。

社会資本整備総合交付金事業 (主)松江木次線東忌部工区

1. 現地での質疑 (事業区間にて)

(委員) 現道拡幅ではなくバイパスとしたのは地元要望か？技術的な問題によるものか？

(県) 現道拡幅では片側交互通行等の交通規制が発生するため、技術的な問題である。

(委員) 集落は片側にしかないが、歩道は必要なのか？

(県) 集落から松江市内に向かう範囲で歩道を設置する。

(会長) 旧道から新道への接続に高低差はないのか？

(県) スムースに取り付けできる。

(会長) バイパス整備により勾配は急になるのか？

(県) 現況8.8%が8.0%に改良される。

(委員) 建設発生土を流用している圃場整備は沿線で行っているのか？

(県) 行っていない。雲南、安来では行っている。

(委員) ICT導入の費用は誰が負担しているのか？

(県) 国の補助があり工事費に計上できる。

(委員) ICTでの施工は入札条件に入っているのか？

(県) ICTの候補だということは明示している。

(委員) ICTのための機械は自社保有か？

(県) リースの場合が多い。

(委員) ICTの導入理由は？

(県) 建設業の人材不足が背景にあり、生産性向上のためにICTを導入している。

(委員) ICTは県内業者も可能なのか？

(県) 県内業者で施工した実績もあり、可能である。

(委員) 当初スケジュールからの遅れはあるのか？

(県) 用地取得が難航し、5年遅れている。現在、用地取得は完了している。

(委員) ロードヒーティングのような除雪対策は行っているのか？

(県) ロードヒーティングは計画していない。グルーピング、除雪作業等で対応する。

(委員) 今の通学路はどこか？交通事故はあるのか？

(県) 現道が忌部小学校、湖南中学校、松江市内高校の通学路になっている。交通事故は発生していない。

社会資本整備総合交付金事業 国道432号東岩坂バイパス工区

1. 現地での質疑 (残事業区間にて)

(委員) 東岩坂BP各地区の施工した順番の理由を教えて欲しい。

(県) 後日説明する。

(委員) 時間短縮はどれくらいか？

(県) 後日説明する。

(委員) 広瀬から荒島経由で松江方面に向かうのは時間がかかる。

(県) おっしゃるとおり。

(委員) H25再評価時に比べ総事業費が1.1億円増加した理由は？

(県) 主に落石対策で増加した。

(委員) 施工中に全面通行止めはあるのか？

(県) 全面通行止めはせずに施工可能。

(委員) 残区間をトンネル整備したらどうか？

(県) 地形が急峻で土質が悪く、地山補強費用等で割高になるため、ループ橋とした。ループ橋の計画を説明。残事業費は30億円。

(委員) 今後も島根県はループ橋を整備する方針なのか？

(県) 東岩坂B Pは地形条件が厳しいためループ橋を計画したが、今後積極的にループ橋を整備する方針というわけではない。

(会長) ここ(峠付近)まで来ると、交通量は少ない。

(委員) 将来の交通量は何台？

(県) 完成後は約2,000台/日と見込んでいる。現在は約700台/日。

(委員) 八雲村は合併して松江市になったため、旧八雲村部分の東岩坂B Pが松江市内の古志原工区や大庭B Pより後回しになったのではないのか？東岩坂B Pは松江市に経済的メリットはないように思われるが、いかがか？

(県) 県としては、国道432号を広域幹線と位置付けて整備を進めており、東岩坂B Pの整備は必要と考えている。

総合流域防災事業 吉田川

1. 現地での質疑 (整備済み区間最上流部にて)

(委員) H23に整備済み区間は氾濫したのか？

(県) 氾濫しなかった。凶面の氾濫範囲は未改修の場合を示している。

(会長) 背後地に田んぼが多い気がするが。

(県) 今後、施工する上流部の背後地は中学校と田んぼである。

(会長) 事業区域はどこまでか？

(県) 吉田橋までの区間。

(会長) 施工済の区間においては既に人家は守られているのか？

(県) 守られている。

(委員) 整備確率年は？

(県) 1/10で整備している。

(委員) 想定氾濫域より上流は氾濫しないのか？

(県) 事業区域外のため想定氾濫区域を示していない。

(会長) 整備断面は完成形か暫定形か？

(県) 川底を掘削し、その土砂で盛土し築堤する。堤防の基礎地盤が軟弱なため、完成断面で整備すると堤防に変状が出るため暫定形で整備中。加えて、河川全体の治水安全度を高めるため暫定断面で上流部へ整備していく必要がある。

(会長) 掘削土は改良が必要か？

(県) 土質試験を行い、利用可能との判定をしている。

(委員) 水際に空隙を設け、動植物に配慮しているとのことだが、護岸は天然石か？

(県) 隙間が多いコンクリートブロックである。(環境保全型ブロック)

(委員) 空隙があるとのことだが、ブロック同士が結合しているのか？(表面的にはそうは見えないが・・・) 結合していない場合、強度は保たれているのか？

(県) 確認し再度、回答する。

(委員) (湯谷川の話ではあるが) 合流部の対策はどういった方法があるのか？

(県) 一般論でいえば、導流堤等を設置するなどの対策がある。湯谷川では、たちまち何か対策をとっては考えていない。

(委員) 年々増加する降雨量にはどう対応するのか？

(県) 現時点で特に計画変更は考えていない。第1回で説明したようにハード・ソフト対策で対応していく考えである。

(会長) 事業着手からの経過年数が67年とかなり長い？

(県) 河川事業は基本的に下流から施工していく。吉田川の場合、下流は安来の市街地であり家屋も多く存在していたため、上流部まで来るのに時間がかかった。また、事業区間が8kmと長いことも要因として挙げられる。

(委員) 工区を区切って事業期間を短くするとかしないのか？

(県) 上流部は背後地がほとんど田んぼであり、上流部だけでは費用対効果を望めないため、このような事業区間の設定となっている。

しかし、河川の場合、下流から上流までの一定区間を整備しなければ治水効果を得られないため、費用対効果を望めないからと言って、上流部の整備が必要ないということではない。事業期間を短くすることは今後の河川事業の課題である。

(委員) この周辺は農業振興地域の範囲なのか？

(県) 農業振興地域の範囲である。

(委員) 護岸の勾配はいくらか？

(県) 1 : 1 で整備している。

(委員) 植生による堤防の検討は？

(県) 1 割勾配の堤防であるため、植生護岸ではもたない。よって検討していない。

(委員) 河川整備後の箇所が反映されているハザードマップは作成しているのか？

(県) 湯谷川同様に、確認し回答する。

○完了地区フォローアップ 道路改築事業 国道431号東林木バイパス

1. 現地での質疑 (東林木バイパス終点にて)

(会長) 副道のみ区間について、これから本線ができることはあるのか？

(県) 未定である。

(会長) 盛土構造から平面構造に計画を変更してコスト縮減したという話だが、このとき用地分のコスト縮減はあったのか？

(県) すでに用地買収はほぼ完了していたため、用地分のコスト縮減はほとんどない。

(委員) 東側 1.2 km の区間はサービス速度 60 km/h が確保できていないのでは？

(県) 部分部分でみると 60 km/h が確保できていない区間があっても、路線全体(完成形)でみたときに確保するという考え方である。

(委員) 残地の有効利用は何かできないか？

(県) ソーラーパネルの設置などを過去に検討したようだが、道路用地として土地を提供して頂いており、将来形(道路)を考慮すると恒久的な施設の設置はなかなか難しいと思われる。

(委員) 高架がなければもっとコスト縮減ができたのではないか？

(県) コスト縮減はできるが、地域高規格道路としての一定のサービス速度を確保するため必要があるため施工した。

(委員) どうして農地の真ん中にバイパスを作ったのか？

(県) 事業着手時(平成5年度)から相当の年月が経過しているので明確には言えないが、

地域高規格道路の一部として計画しているため、当初のサービス速度(60~80km/h)等の構造要件を満たすことなどを考慮してルートを計画しているものと考えられる。

(委員) 副道供用区間の遺跡の調査は終わっているのか？

(県) 青木遺跡は暫定的に終わっているが、将来的に本線を設置することになった場合は文化財課と再度協議する必要がある。

(委員) 境港出雲道路を今後作っていくのか？

(県) 現在、東林木バイパス、松江だんだん道路、国道9号出雲バイパス、出雲インター線が完成しており、これから松江北道路に着手する予定である。

(会長) その図面(出雲県土整備事務所事業概要図)が欲しい。

(県) 後日お渡しする。

(委員) 高架部分は自動車専用道か？

(県) 自動車専用道ではない。

(委員) 将来的に自動車専用道路になるのか？

(県) 本線部分を施工した場合、最終的に公安委員会等と協議した上で決定することになると思われる。

(委員) 実際の交通量が少ないのではないか？

(県) 東側1.2kmの区間までは10,000台/日程度ある。矢尾今市線が開通することで、東林木バイパス全線の交通量増加が見込まれる。